事例No.	2878
公表年度	R5
団体の属性	一般市
団体名	兵庫県丹波篠山市

事例区分	地域活性化

タグ	・人材確保・育成 ・地域運営組織

事例種類	人材確保・育成

事例内容・タイトル

事例６　丹波篠山市・神戸大学・丹波篠山キャピタル　その１、その2

出典

地域づくり人材の養成に関する調査研究会（第3回）

事例６　丹波篠山市・神戸大学・丹波篠山キャピタル　その１

団体名	丹波篠山キャピタル		運営形態	一般社団法人
活動範囲	複数市町村（丹波篠山市（主）、丹波市）			
中核を担う職員等	任用形態	非常勤	出身地	地域外（京都府宇治市、山口県　等）
	年齢	30代、40代		

【取組み概況】

○　丹波篠山キャピタルのキャピタルは**ヒューマンキャピタル（人的資本＝地域の人々の力）**であり、地域の人々の力をさらに大きくして次世代につなげていくことを大きなミッションとしている。

○　主な取組として、篠山イノベータースクールの運営、丹波篠山市地域おこし協力隊のコーディネート及び募集。

○　篠山イノベータースクールは、丹波篠山を舞台とした**起業・継業のためのローカルビジネススクール**であり、現在は９期目で、これまでの卒業生は208名。毎年定員が切れることなく30名（もしくはそれ以上）の方に受講してもらっており、2025年で300人目標に順調に推移しており、その後も**市内で多くの方が起業**している。

○　今後の展望として、後継となる若手人材を育成しつつ、継続的な運営を図っていきたいと。更に、新たな事業を企画しつつ、地域の多様な分野からの**賛同者を増やし**、地域づくりの**裾野拡大**を図っていきたい。

【設立の経緯】

○　もともと神戸大学農学部の前身、**兵庫県立農業大学が篠山にあった**ことが全てのきっかけとなり、それを経て、2007年に**農学部と丹波篠山市とで地域連携協定**を結び、丹波篠山フィールドステーション（旧称神戸大学フィールドステーション）、神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボを拠点施設として開設。

○　丹波篠山キャピタルは、これまでの活動を統合し、多様な大学・研究者との連携を拡げ、持続可能な事業として発展させることを目的に設立。（2016年に一般社団法人EKILAB.として設立し、2022年に社名変更し、一般社団法人丹波篠山キャピタルになる。）

○　2014年に地域おこし協力隊の受入を開始し、神戸大学にコーディネート業務を委託。

○　2016年に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の先駆的プロジェクトとして農村イノベーションラボを篠山口駅の拠点を設け、農村の新しい価値を見つけ、地域課題解決をしながら自分の仕事を生み出す企業・継業スクールである**「篠山イノベーターズスクール」**を開校。

事例６　丹波篠山市・神戸大学・丹波篠山キャピタル　その２

【行政との関わり】

○　市として、丹波篠山キャピタルに対し、丹波篠山市農村イノベーションラボ**運営業務**（篠山イノベーターズスクール実施業務）、**地域おこし協力隊コーディネート・募集業務**を委託している。

○　市も積極的に関与しており、行政課題を捉えながら法人運営してもらえるよう常に情報交換を行っている。そのため、行政の方向性とは一致しながらも、民間としての**機動力をもって事業を展開**してもらっている。育成した人材を地域へ輩出するとともに、起業者から学生まで幅広く人材として取り扱い、地域課題や他の人材とのマッチングを事業で累積したリソースの中で行っており、市にとっても非常に有益である。

○　市からの委託事業のほかにも**県等からも事業を受託**し、**周辺地域とも連携**して事業を進めようとしており、事業的にも経営的にも弾力ある展開を期待する。

【中核を担う者の状況】

［①30代男性］

○　神戸大学のゼミ活動をきっかけに地域づくりに関わるようになり、2014年に**地域おこし協力隊として活動**。そのゼミの先生が代表を務める団体であったことから、ゼミの先生からお声掛けをいただいたタイミングで入団することとなった。

○　協力隊OBとして初めは**協力隊コーディネート業務**に関わり、現在は**篠山イノベーターズスクールの運営**等に従事。

［②40代女性］

○　元々は、篠山口駅の中にラボができる前に、あの場所をどういう場にしたらよいかという、市民で構成される検討委員会の委員として呼ばれ、そこで市の政策やスクールの位置づけについて話を伺い、委員の方たちと場づくりをどうするかという協議を行った。社団法人エキラボが立ち上がる際は運営にも関わった。その後、丹波篠山キャピタルの**代表からの声がけで参画**。

［③30代女性］

○　学生時代に、神戸大学の農業農村**実習にて丹波篠山市で活動**を行っていた。また、学生TAとして農村ボランティアマッチング事業や、地域連携活動（丹波篠山キャピタル代表理事が担当教官）に関わっていた。

○　大学卒業後、**関東で勤務**をしていたが、地元関西圏への**Ｕターン**を考えていた際に、**SNSで現職の求人情報**を見つけ、応募した。学生時代に丹波篠山の地域連携活動に関わっていたため、丹波篠山キャピタル立ち上げ以降の経緯について、SNS等を通して知っていたことが大きなきっかけとなった。